



1人1台時代の新聞を活用した学び

～「朝日小学生新聞デジタル for school」の効果的な活用について～

さいたま市立植竹小学校 教諭 菊池 健一

1 はじめに

これまで、NIE（新聞活用）の活動に取り組み、主に紙の新聞を活用してきた。具体的には新聞を資料として授業で扱う新聞活用学習、そして、新聞作りを学ぶ、新聞製作学習、さらには新聞というメディアについて、そして役割について学ぶ新聞機能学習に取り組んできた。新聞には一覧性や操作性があり、紙の新聞を活用することで、学習の充実に大きな効果があった。しかしながら、昨今の家庭の新聞購読率の低下により、児童が新聞を用意できないことや同じ日の同じ記事をクラスで一緒に読むことができない現状があった。「朝日小学生新聞デジタル for school」はこれらの点の改善につながるばかりか、新たな新聞活用の可能性を秘めている。昨年度と今年度、手探りの状態ではあるが実践に取り組んだ。その成果を報告する。

研究テーマ

「児童の豊かな表現力を育てる指導の工夫・改善
—デジタル版の新聞を活用した NIE の実践を通して—

目指す児童像

- 日常的に新聞を読める児童
(社会的な事象に関心をもてる児童)
- 自分の必要な情報を主体的に得られる児童
- 自分の考えを表現できる児童

目指す NIE

- 日常的に児童が新聞を読める環境をつくる。
- 児童が主体的に記事を選んで学習できる環境をつくる。
- 授業で効果的に新聞活用をする。

以上の研究計画の下、「朝日小学生新聞デジタル for school」を活用した指導の実践を行った。

2 実践内容

(1) 令和2年度の実践(5学年)

① 日常的な活動での活用

・新聞トーク

毎日、朝の会で児童に新聞記事を紹介する時間を設けた。授業に関連のある記事や話題となっている記事を選んで紹介した。

タイムリーな記事を紹介でき、準備がほとんどいりません。児童も同時に記事を見られます。



・新聞スピーチ

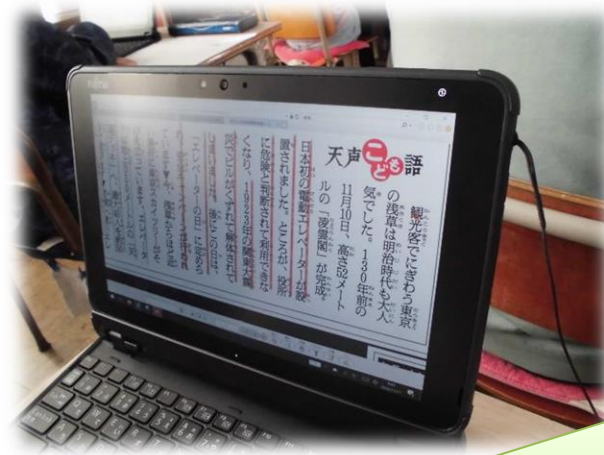
毎日、日直の児童が輪番制でスピーチを行っている。その題材として、朝小の記事を活用した。児童は登校すると朝小の記事を読み、スピーチの構成を考え、友達に記事の紹介や自分の意見の発表を行った。

自分の書く力の伸びを実感できます。

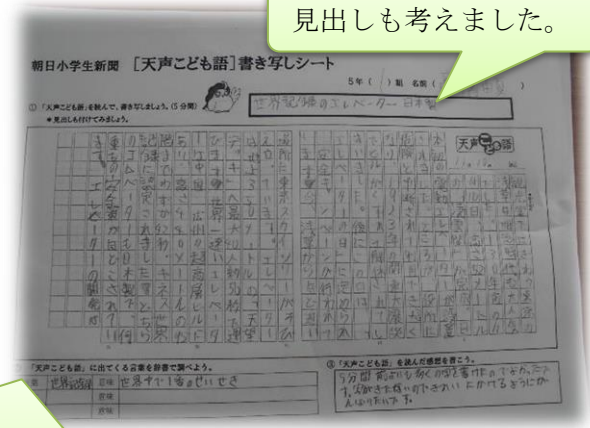


・「天声こども語」の書き写し

週に1回、業前の時間を活用して、朝小の「天声こども語」の書き写しを行った。時間を3分とし、時間内にどのくらいの文字数を書けるかを毎回調べた。また、記事に出てくる言葉を辞書で調べたり、記事に見出しをつけて発表し合ったりした。



見出しも考えました。



② 教科での活用

・国語科での活用

5 学年「複合語」



自作のワークシートを活用しました。毎回、文字数を記録しました。成長が目に見えるので、児童は意欲的に取り組みました。

「複合語」について教科書で学んだ後に、朝小デジタル版で「複合語」を探す活動を行った。記事は社会的な事象との関連を考慮し「新型コロナウイルス流行」に関する記事を使用した。児童は進んで記事から複合語を探し、その構成や意味などを調べていた。また、友達同士で見つけた言葉を紹介し合った。「予防接種」「共同購入」「世界保健機関」「特別扱い」「感染拡大」など、多くの「複合語」を見つけることができた。

5 学年「提案文を書こう」(書くこと)

社会的事象に触れながら学習できます。

身近な問題について自分が関心のあることを題材に選び、情報集めを行い、必要な情報を整理分析して提案文を書く学習で朝小のデジタル版を活用した。朝小の記事を参照し、現在問題にな

っている社会的な事象について自分が関心のあることを調べる題材として選んだ。「アオウミガメの保護」「野球場での新型コロナウイルス感染対策」「CO2の削減」などの課題が選ばれた。以前の実践では、新聞を継続してスクラップしながら課題を見つけていた。それも有意義な活動ではあるが、デジタル版を活用することで、スクラップが苦手な児童も進んで記事を探すなどの効果があった。今回の実践では少人数のグループで課題を決め、協力して調べ学習をする計画を立てたので、デジタル版を使って、複数の児童が同じ記事と一緒に読むことができたので大変役立った。提案文を書くためのより良い情報集めを行うことができた。



・社会科での活用

5 学年『わたしたちの国土』『あたたかい土地の暮らし』



記事の「検索機能」を使います。

わたしたち
の住む国土の特
徴を学ぶ学習で沖

縄県の人々の暮らしや沖縄の特徴などを学習した。教科書などでの学習の後にグループで協力して「沖縄新聞」を作成した。新聞作成のための調べ学習のツールとしてデジタル版を活用した。学校で朝小を購読しているので、朝小のデータベースを活用することができる。ここでは紙面ではなく、朝小で特集される「都道府



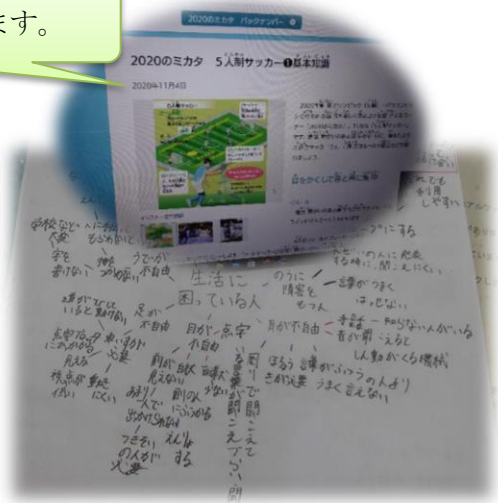
県ファイル」や「都道府県さんぽ」を活用した。児童はそれらの記事をもとに調べたいことを決め、さらに詳しく調べることができた。

・総合での活用

5 学年『みんなが住みよい街をつくろう』(福祉)

5 学年では福祉について取り上げ、自分の住む地域がすべての人に住みやすい街にするためにできることを提言するという目的を掲げ、学習に取り組んだ。学習のスタートで、障害のある方の体験活動を行うのと並行して、朝小のデジタル版の記事で福祉に関する記事などを探し、課題設定の資料とした。児童は体験や、朝小の記事をもとに、取り組みたい課題を設定できた。

記事の「検索機能」を使います。



・食育での活用

朝小には有益なデータベースがたくさんあります。

毎日の給食に出される食材の中から野菜を1つ選び、朝小の野菜に関する記事を参照した。朝小のデータベースを活用して、輪番で児童が野菜の特徴や産地などについて紹介し合った。また、記事はプリントアウトし掲示もした。社会科の農業の学習とも連動し、児童は食料の産地についても大変興味を持っていた。



③ 成果と課題 (◎…成果 ●…課題)

- ◎身の回りの出来事へ関心を持つ子が増えた。
- ◎分からないことを調べる姿勢が身についてきた。
- ◎書くことに自信を持てるようになった。
- ◎書く技能が向上した。



[書く技能の調査項目]

- 1 伝えたいことと、その理由（根拠）がはっきりと書けている。
- 2 伝えたいことと理由を分けて書けている。
- 3 誤字脱字がなく、正確に書けている。
- 4 文章のねじれがなく、正確に書けている。

- さらに児童が日常的に自主的に新聞を閲覧したり、資料として活用したりできる機会を設ける必要がある。
- 各教科の授業でさらに活用場面を作り、授業の目標を効果的に達成できるようにする必要がある。
- 取り組みを学校全体に広げ、系統的に指導できるようにする必要がある。

(2) 令和3年度の実践 (3 学年)

アクセスしやすくすることで活用頻度が高まります。

① 児童が朝小デジタル版にアクセスしやすくするための工夫

昨年度は児童が朝小のデジタル版にアクセスするのに時間がかかったのが課題として残った。

今年度は、児童が使用する学習 e ポータル「L-Gate」のトップに朝小のリンクを貼り、児童がアクセスしやすくした。登



校した児童はすぐにタブレット端末を開き、朝小を読むことができるようになった。

② 日常的な NIE 活動として

・ 掲示コーナー

毎週、教室や学年の掲示板に朝小の記事を掲示した。記事は学習内容に関係のあるものから、社会的に話題になっているものを選定した。児童がいつでも閲覧できる場所に置いたので、多くの児童が進んで参照していた。朝小デジタル版では、記事をそのままダウンロード・印刷することができるので、掲示を作る際も手間がかからないので便利であった。

「切り抜き機能」できれいな掲示物が作れます。



・ 新聞トーク

記事を紹介する準備が容易です。児童も同じ記事を手元で見られます。



昨年度に引き続き、朝の教師の「新聞トーク」を行った。今年度からデジタル版では、記事の検索機能が付き、一つの記事から関連する記事を探すことができる。そこで、いくつかの関連のある記事を紹介したり、ある話題について継続的に紹介したりした。特に今年度は東京オリンピック・パラリンピックが行われたため、関連記事をたくさん紹介できた。

・ 児童の新聞スピーチ

昨年度に引き続き、児童が輪番で朝小の記事をもとに、記事の内容紹介や自分の考えを発表する「新聞スピーチ」も取り入れている。3 学年であることも考慮し、教師の作成したスピーチシートを使い、簡単な内容でのスピーチを続けている。



聞き手の児童も同じ記事を見ながら発表を聞けます。

・ ワークシートの作成

朝小のデジタル版では今年度より記事のダウンロード・印刷が容易になった。そのため、教師が自作のワークシート（朝小の記事をもとにつくるもの）を作成しやすい。学習に関係のある記事や社会で話題となっている記事などを選び、ワークシートを作成した。これまでも自作のワークシートを作成してきたが、紙の新聞を切り貼りしたり、スキャナを使ってデータ化したりしても、うまく取り込めないことが多かった。朝小のデジタル版の機能を使うことで、きれいにワークシートを作成することができるようになった。さらに、授業のプリントの資料としても盛り込むことなどの工夫ができそうである。



教師の教材研究にも最適です。

③ 授業での活用

・国語での活用

3 学年「送りがな」

送り仮名の役割として、漢字の読み方を規定することや、意味を限定することを学ぶ単元において朝小デジタル版を活用した。児童が大変関心のある新型コロナウイルス流行に関する記事を用いて、その中から漢字とその送り仮名を見つけてワークシートに書かせた。児童や意欲的に活動に取り組み、送り仮名の役割について十分理解することができた。

単に教科書の教材を使うよりも児童が進んで学習に取り組みました。



・社会科での活用

3 学年「わたしたちのさいたま市」



必要な記事を手軽に検索でき、活用できることで、新聞を使う頻度が増えてきました。

児童が住むさいたま市の特徴について学ぶ学習において朝小デジタル版を活用した。朝小では、毎年特集される都道府県の特徴をまとめた記事がある。その記事を資料として活用した。児童がさいたま市について学んだことを新聞にまとめる際に、朝小の特集記事「都道府県さんぽ」などを活用し、さいたま市の特徴を調べた。複数の児童が自分の端末で同じ記事を同時に閲覧できるため、学習のまとめで行う新聞づくりでも、資料を有効に活用することができていた。

今年度後期の実践として、取り組み、報告をする予定です。

④ 今後の活用予定

・紙の新聞とデジタル版の相互効果を高める活動を行う。

デジタル版の新聞記事と紙の新聞の両方を活用し、それぞれの良さを感じながら活用できるようにしていく。(例：3 年生算数「大きな数」で、新聞記事から大きな数を探す活動などで実践する。)

・児童の情報源として、デジタル版の日常的な活動を促す。

学習した内容について、社会の中の出来事とどのようにかかわるのかを具体的に考える学習で活用していく。(例：3 年生社会科「店の仕事」で、スーパーが CSR 活動として行っていることを調べる際にデジタル版で検索する。)

・児童の興味・関心を広げるツールとしての活用をさらに進める。

授業で取り上げたことや上司が紹介した新聞記事などから興味を持ったことについて自由に検索して調べることができるようにする。

・「天声こども語」の活用を進める。

読解力の向上を図るために、「天声こども語」を活用する。デジタル版のワークシートに取り組む時間を設ける。